

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 16 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K03193

研究課題名（和文）中世後期ヨーロッパ世界と贖罪・規律・権力

研究課題名（英文）Penitence, Discipline, and Power in Late Medieval Europe

研究代表者

青谷 秀紀 (Aotani, Hideki)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：80403210

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、フランス王国とその周辺を中心として、中世後期における宗教と権力の関係を、教会とこれに範をとった俗人による罪と贖罪をめぐる様々な実践の分析から明らかにした。具体的には、異端審問や教会裁判、宗教儀礼に焦点を当てることで、世俗化が進展したとされる13世紀以降のヨーロッパにおいても、信徒の魂が、教会の聖職者によってだけでなく、王権や都市政府によっても直接間接さまざまな形で統御されていた実態を浮き彫りにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中世ヨーロッパ史の概説的な理解によれば、11世紀以降の教会改革を経て政治と宗教、聖なる世界と俗なる世界は区分され、それぞれが固有の領域を形成するとされる。しかし、本研究では、13～16世紀初頭のフランスとその周辺における聖俗の司法的実践や各種の宗教儀礼を検討することで、王国から都市に至るまで様々なレベルの共同体社会で、権力と聖なるものが様々な形で分かちがたい関係を取り結んでいたことが明らかとなった。こうした知見は、既存の中世像を新たに作るだけでなく、世俗化の先に再聖化の傾向が指摘される現代世界において、政治と宗教の関係を再考するための手がかりともなるだろう。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the relationship between religion and power in the late Middle Ages, centred on the Kingdom of France and its surroundings, by analysing various practices concerning sin and penitence through the church and the laity who followed its model. Focusing on the Inquisition, church trials, and religious rituals, it showed how strongly the faithful's souls were governed both directly and indirectly by clerics of the church, the king, and city governments in Europe, even after the 13th century, when secularization progressed.

研究分野：西洋中世史

キーワード：贖罪 権力 異端 王権 都市

1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初、13世紀に始まる異端審問、「いともキリスト教的な王」に体现される中世後期フランス王権の性格、ブルゴーニュ公やその支配下にあるネーデルラント都市が推進する宗教政策といった個々のテーマについては先行研究が存在するものの、それらを、中世後期における権力と宗教の関係といった視点から捉え直し、霊的権力秩序の編成に関するまとまった歴史像を打ち出すような研究はさほど見られなかった。

2. 研究の目的

本研究は、上記のような背景のもと、13世紀から16世紀初頭に至るフランス王国とその周辺を具体的な対象として、中世盛期の教会改革後の聖俗関係に抜本的な見直しを図り、中世後期のヨーロッパ像を刷新する試みとして構想された。

3. 研究の方法

中世後期における霊的権力秩序の再構造化には諸段階があると考え、研究代表者と研究分担者がそれぞれ異なる時代・対象の考察を行い、そのうえで一体的な歴史像を提示できるように研究体制を構築した。具体的には、図師が、13世紀から14世紀の異端審問を中心として教会が司牧権力を掌握する時期を、轟木が13～14世紀のフランス王権による教会の統治モデルの利用を事例として教会と俗人の間における霊的権力秩序の再構造化の過程を、そして青谷が14～16世紀初頭の救霊的实践とヴァロワ・ブルゴーニュ公権、都市の関係をとり上げ、その再構造化の最終的な段階を担当した。そのうえで、定期的な研究会において各自の研究成果をすりあわせ、中世後期の権力と宗教に関する新たな見方を打ち出せるよう努力した。

4. 研究成果

以下、研究方法の欄で示した霊的権力秩序の諸段階の見取り図に従って、時系列に沿う形で研究成果を提示する。

まず、図師は、13世紀から14世紀前半の中世南フランスにおける異端審問記録の分析を通じて、審問官による記録の作成・保管・利用の実態に迫った。審問官は被告への尋問を通じて引き出した証言を書記に書き留めさせ、その記録をアーカイヴに保管した。その記録は索引や欄外の見出しなど必要な情報を探し出すのに適した検索の仕組みを取り入れたものであり、審問官はそうした過去の記録を参照しながら被告の尋問を行っていた。異端審問には正統と異端のはざままで揺れ動く住民の関係を統御するという側面が窺え、審問官が社会の現実にとどのように働きかけていたかも問題となる。このように文書利用という観点から権力のあり方を議論することで、本科研のテーマを深める足がかりを得ることができた。

続いて、轟木は、中世後期フランスの信仰と権力のありかたについて、「公共善」「身体」といった概念からアプローチするという試みとして、第一に、ルイ9世時代からフィリップ4世時代の地方巡察を取り上げ、それが国王自身の救霊を目的とするものから、王国の公共善を企図するものへとどのように転換したかをあきらかにする論文を発表した。第二に、成果報告書においては、12世紀との比較において、14世紀初頭のフランス王権が、「国王保護」と呼ばれる「弱者」の保護活動をどのように導入することになったかを論じ、その過程で、嘆願者や保護者たる国王の身体的所作問題についても取り上げた。最後に、研究テーマのひとつとして挙げていたフィリップ4世王権のテンプル騎士修道会・ユダヤ人・高利貸に対する政策については論考を完成させるには至らなかったが、それが「王国の浄化」という準宗教的企図に裏打ちされたものであると同時に、この時代の王権に独特な富と財をコントロールする方策でもあるとの見通しを得ることができた。

最後に、青谷は、14世紀末から16世紀初頭にかけての南ネーデルラントにおいて、ブルゴーニュ公と、これに対峙する都市が、救霊にまつわる実践のコントロールを通じて、心身両面から市民を統御しようとする様々な試みに考察を加えた。公国内においてはフランドル伯領を主な対象とし、教皇庁、そしてトゥルネー司教管区でシスマが見られた14世紀末及び16世紀初頭に焦点を絞った。これらのシスマを主なあるいは一つの背景として、ブルゴーニュ(=ハプスブルク)君主と都市政府が、聖務停止や贖宥といった教会罰・霊的恩恵の付与をめぐる様々なプロセスに介入し、市民を自己の統治に包摂しようとする様子について、複数の論説で論じている。公国外ではリエージュ司教君主領を対象に、1460年代の都市リエージュの反乱の諸過程を検証した。これを通じて、ブルゴーニュ公が、司教管区の再編や都市の聖人崇敬のアプローチなどによって、霊的な領域においても司教君主領を公国支配に組み込もうとする経緯や、これに対する都市政府及び市民の具体的な抵抗のあり方を、やはり複数の論説で様々な角度から明らかに

した。

以上のように、各自がそれぞれの研究対象を通じて、中世後期の霊的権力秩序の様相を浮き彫りにするよう努めた。このテーマについては、本研究によって必ずしもすべての主要な論点が汲み尽くされたわけではなく、13世紀の司牧革命や宗教改革期の宗派体制化をめぐる議論との具体的な接合も課題として残されているものの、今後も同様な問題を追究していくための確固たる基盤を構築することはできたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 青谷秀紀	4. 巻 なし
2. 論文標題 「「堤防の贖宥」（1515年）とその周辺 ブルゴーニュ=ハブスブルク家の宗教政策とフランドルの都市社会」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『中世後期ヨーロッパ世界と贖罪・規律・権力 JSPS 科研費 17K03193 成果報告書』	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 轟木広太郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 「国王保護の系譜 カペー王権の場合」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『中世後期ヨーロッパ世界と贖罪・規律・権力 JSPS 科研費 17K03193 成果報告書』	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 図師宣忠	4. 巻 なし
2. 論文標題 「『モンタイユール』を読み直す 異端審問記録の「読み」の可能性をめぐって」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『中世後期ヨーロッパ世界と贖罪・規律・権力 JSPS 科研費 17K03193 成果報告書』	6. 最初と最後の頁 39-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青谷秀紀	4. 巻 なし
2. 論文標題 「都市反乱と暴力の諸形態 15世紀後半リエージュの内紛を手がかりに」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高田京比子・田中俊之・轟木広太郎・中村敦子・小林功編『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』（ミネルヴァ書房）	6. 最初と最後の頁 269-295
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 轟木広太郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 「救霊から共通善へ カペー朝後期の地方監察」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高田京比子・田中俊之・轟木広太郎・中村敦子・小林功編『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』（ミネルヴァ書房）	6. 最初と最後の頁 193-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 図師宣忠	4. 巻 なし
2. 論文標題 「異端者の情報にアクセスする 中世南フランスにおける異端審問記録の作成・保管・利用」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高田京比子・田中俊之・轟木広太郎・中村敦子・小林功編『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』（ミネルヴァ書房）	6. 最初と最後の頁 169-192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青谷秀紀	4. 巻 172
2. 論文標題 「シスマのなかのフランドル 14世紀後半の政治と信仰をめぐって」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『駿台史学』	6. 最初と最後の頁 27-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 轟木広太郎	4. 巻 41
2. 論文標題 「『いともキリスト教的なる』中世フランス国王の正義 カペー朝後半期の国王平和令」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所年報』	6. 最初と最後の頁 43-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kotaro Todoroki	4. 巻 10
2. 論文標題 "Communicate in Order to Govern the Realm of France: An Administrative Inquisitor under the reign of the Later Capetians"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of Medieval Communication: Some Aspects. The 10th Japanese-Korean Symposium on Medieval History of Europe, August 2019.	6. 最初と最後の頁 70-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青谷秀紀	4. 巻 976
2. 論文標題 ブルゴーニュ複合君主政下のネーデルラント諸邦	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 178-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青谷秀紀	4. 巻 162
2. 論文標題 「15世紀後半リエージュ司教領の紛争と都市のレジリエンス ディナン、リエージュの破壊と再建から」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『駿台史学』	6. 最初と最後の頁 37-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青谷秀紀	4. 巻 なし
2. 論文標題 「ブルゴーニュ公か、ブラバント公か 15世紀後半のリエージュ紛争と君主支配の展開」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 朝治啓三・渡辺節夫・加藤玄編著『<帝国>で読み解く中世ヨーロッパ 英独仏関係史から考える』	6. 最初と最後の頁 102-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 轟木広太郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 「フランス国王と異端 アルピジョワ十字軍からベルナル・デリシユー事件まで」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 朝治啓三・渡辺節夫・加藤玄編著『<帝国>で読み解く中世ヨーロッパ 英独仏関係史から考える』	6. 最初と最後の頁 240-261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 青谷秀紀
2. 発表標題 「「堤防の贖宥」（1515年）とその周辺 ハプスブルク家の宗教政策とフランドルの都市社会」
3. 学会等名 日仏歴史学会第9回研究大会（2021年3月29日、オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideki Aotani
2. 発表標題 "Stedelijke devotie als communicatiemedi in de laatmiddeleeuwse Nederlanden"
3. 学会等名 Cultuurgeschiedenis van de middeleeuwen (gastcollege in de cursus van Prof. P. Trio) aan de KU Leuven, 13 december 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kotaro Todoroki
2. 発表標題 "Communicate in Order to Govern the Realm of France: An Administrative Inquisitor under the Reign of the Later Capetians"
3. 学会等名 Medieval Communication: Some Aspects. The 10th Japanese-Korean Symposium on Medieval History of Europe, August 2019.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobutada Zushi
2. 発表標題 "Coinage and the Representation of Power in Medieval Languedoc"
3. 学会等名 The Monetary System and Currency in International Medieval Congress (IMC) in Leeds, 4th July 2019, University of Leeds.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 轟木広太郎
2. 発表標題 「大きな平和と小さな平和 カペー朝後半期の国王の正義」
3. 学会等名 日仏歴史学会第8回研究大会（2019年3月28日、龍谷大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 轟木広太郎
2. 発表標題 「国王保護 <i>sauvegarde royale</i> から見る後期カペー王権の正義・平和」
3. 学会等名 京都大学西洋史読書会第86回大会（2018年11月3日、京都大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青谷秀紀
2. 発表標題 ブルゴーニュ複合君主政下のネーデルラント諸邦
3. 学会等名 歴史学研究会大会 合同部会「主権国家」再考（2018年5月27日、早稲田大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 図師宣忠
2. 発表標題 「カタリ派 へのアプローチ 異端審問記録と中世南フランス社会」
3. 学会等名 日仏歴史学会第7回研究大会（2018年3月28日、明治大学）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 轟木広太郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 205-217
3. 書名 「解説 異端審問と交差する4つの歴史の道筋」、渡邊昌美『異端審問』（講談社学術文庫）	

1. 著者名 青谷秀紀（共編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 328
3. 書名 『論点・西洋史学』	

1. 著者名 青谷秀紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 120-121
3. 書名 「ブルゴーニュ公の宮廷文化」、『論点・西洋史学』	

1. 著者名 轟木広太郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 82-83
3. 書名 「封建革命論」、『論点・西洋史学』	

1. 著者名 轟木広太郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 100-101
3. 書名 「神判から証人尋問へ」、『論点・西洋史学』	

1. 著者名 図師宣忠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 96-97
3. 書名 「迫害社会の形成」、『論点・西洋史学』	

1. 著者名 轟木広太郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 36-42
3. 書名 「封建社会の王 前期カペー朝」、中野隆夫・加藤玄編『フランスの歴史を知るための50章』	

1. 著者名 関師宣忠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 77-82
3. 書名 「カタリ派のコスモロジー 中世南フランスの信仰と異端迫害」、中野隆夫・加藤玄編『フランスの歴史を知るための50章』	

1. 著者名 関師宣忠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 26-42
3. 書名 「歴史の扉1：騎士道精神と宮廷風恋愛」、『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』	

1. 著者名 関師宣忠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 17-25
3. 書名 「中世フランスの社会と文化」、『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』	

1. 著者名 関師宣忠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 2-16
3. 書名 「中世フランス王権の歴史的展開」、『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	轟木 広太郎 (Todoroki Kotaro) (60399061)	ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授 (35305)	
研究分担者	函師 宣忠 (Zushi Nobutada) (60515352)	近畿大学・文芸学部・准教授 (34419)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関